



震災からまもなく7年が経過する福島。

様々な地域、様々な分野で一步ずつ日常を取り戻す取組みがなされています。

こうした取組みについて、その土地を訪れて知り、これから進んでいく“みち”を一緒に考えてきました。

今回は、これまでの「ふくしま“みち”さがし」での気づきを多くの方と共有し、

未来のふくしまについて、みんなで考えていきます。

*“みち”とは、これまで知らなかったことの“未知”と、これからの福島の“道”の意味。くるまざカフェは、くる、まざる等の意味が込められています。

参加
無料

日時:2018年2月24日(土)12:45-16:30(開場 12:00)

会場:コラッセふくしま 4F 多目的ホール(福島県福島市三河南町1番20号)

プログラム

第一部

ふくしま“みち”さがしトークセッション
現地を巡り感じた気づきを共有します。

- ①ふくしまの果樹・森・里・海の今を知る
- ②日本で最も美しい村「飯舘」を訪ねる
- ③除染後、仮置場、中間貯蔵の今を知る

第二部

ワークショップ
5つのテーマに分かれふくしまのこれからを考えます。

- ①浜通りの“くらし”と“しごと”
- ②あぶくまの森林里山の“くらし”
- ③ふくしまの伝え方、伝わり方
- ④シニア世代のチャレンジ
～飯舘、次世代へのバトン～
- ⑤除染のその後～仮置場、中間貯蔵～

ファシリテーター



開沼 博 | 立命館大学
衣笠総合研究機構 准教授

福島県いわき市生まれ。10年以上にわたり福島と原発についての社会学的研究を進め、3.11後はフィールドワークとデータ分析をもとに福島の復興の現状と可能性を調査。『はじめての福島学』『福島第一原発廃炉図鑑』などの著書を刊行するとともにテレビ・ラジオ・新聞・雑誌等で一般向けの情報発信を続けている。



越智 小枝 | 東京慈恵会医科大学
臨床検査医学講座 講師

東京医科歯科大学医学部卒業後、公衆衛生に興味を持つ。インペリアルカレッジ・ロンドン公衆衛生大学院への留学決定直後、東京で東日本大震災を経験。相馬市の仮設健診などの活動を手伝いつつ世界保健機関(WHO)やパブリックヘルス・イングランドで研修を積んだ後、2013年から2017年まで相馬中央病院勤務。

お申し込み (事前申込制)

お名前、お住まいの市町村、年齢をお知らせください。
お申し込み先:環境再生プラザ(福島県・環境省共同運営)

TEL:024-529-5668
MAIL:josen-plaza@env.go.jp

詳細は、くるまざカフェ

検索